

第3節 剰余価値生産の増大のための生産力の発展と資本・賃労働関係

本節の課題：資本主義のもとでの生産力の発展はどのような形態をとって進展し、それは資本家と労働者との関係にどのような問題をもたらすのか

資本主義的生産：多数の労働者が資本家の意思のもとに統一されて共同作業＝_____を行なう。

理論的・歴史的段階変化	生産力基盤	労働編成
(1)単純協業 初期マニファクチュア時代		
(2)分業による協業 本来的マニファクチュア時代		
(3)機械制大工業		

資本主義的生産様式は_____という技術的基礎を得ることによって初めて本格的に確立し
経済・社会を支配する生産様式となる。

I 協業と分業

(1) 単純協業

定義：同一の生産過程またはそれに関連する生産過程で、多数者が計画的に並んで
_____労働を行なう生産形態

① 単純協業による生産力の発展

協業による生産性上昇・新しい生産力の創造

(a) 生産手段の節約：_____の経済性の要因

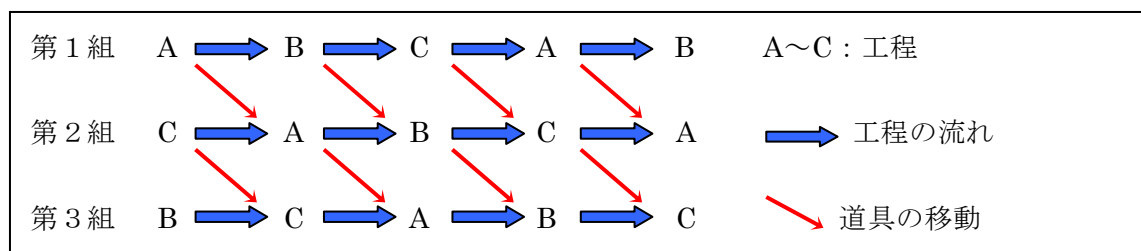
i) 道具類の共同使用による節約

例：3工程の作業で1工程1種類の道具

30人が分散的に行なえば1種類30個・計90個の道具が必要

30人を1か所に集めて道具を共同すれば？

10人ずつ3組に分け、各組が1工程ずつずらして作業を行なうと



道具は1種類____個, 合計____個に節約できる

ii) 原材料や仕掛品在庫の節約

作業工程の円滑な進行のための一定量の原材料・仕掛品在庫の必要性

⇒ _____ 在庫によって節約する可能性

cf. トヨタのかんばん方式, JIT方式

(b) 競争による刺激効果

共同作業による競争心の刺激→作業効率の _____

(c) 集団力としての生産力の創造

個人では不可能な共同労働

それ自体として _____ でなければならないような生産力の創造

cf. 農作業, 地引網, 綱引き…

= 個々の労働者の力の単純合計との本質的な違い

② 「資本の生産力」としての発現

協業において創造される新たな生産力 = 「 _____ 労働の生産力」

資本家が支払うのは _____ の労働力の対価のみ

結合労働力による _____ 労働の生産力の対価は支払わないが

⇒ 資本主義のもとでは資本の生産力として発現

なぜなら・・・

(a) 協業を行なうための資金

協業による新しい生産力の創造のためには

{ 一定数の労働力を購入しうる _____
共同利用のための _____ 手段の集積(その資金)

が必要

But 個々の労働者は必要な資金を _____

(b) 資本家の指揮

資本家: 協業させる資金の _____

労働者: 資本家の指揮下でのみ協業が可能

(c) 資本の生産力

社会的労働の生産力は労働者の協業が _____

⇔ 労働が _____ のものとなるまでは発揮されない

⇒ { 資本の生まれながらの _____ として発現
資本がその成果を獲得＝当然のように現象

③ 資本による労働支配

共同的労働のための指揮・監督の必要性⇒資本主義的協業では _____ が指揮・監督

(a) 本来的な指揮・監督の機能

集団力としての生産力の発揮⇒個々の労働者の力が _____ 力として結集される必要

*一定の構想・計画・判断など指揮・監督に不可欠な職務が存在

ただし一般的な人間の持つ能力をはるかに超えた特別な能力を必要とするような職務 _____

(b) 資本主義的協業に特有な指揮・監督の機能

i) 最大限の搾取のための指揮・監督

{ 労働者に秩序正しく十分な _____ で労働させる
労働者に反抗や生産手段の _____ をさせない

そのための指揮・監督・統制を強化する必要

ii) 指揮・監督のための階層構造の形成

協業の規模の増大⇒指揮・監督の機能拡大

→指揮・監督の専門家＝職業的 _____ 層の必要性

指揮・監督・統制の効率的実行のため、それらの一部を労働者の特定の階層に _____

⇒指揮・監督の機能と権限に応じた _____ 型の階層構造の形成

iii) 資本家＝経営者としての能力

資本家または専門的経営者が行なう

{ 1.労働者の指揮・監督・統制
2.原材料市場や生産物販売市場の動向の把握
3.他の資本との _____ への対応

これらは資本家＝経営者の特別な能力が必要

⇒この能力と職務に対する報酬＝剰余価値？

資本主義的商品生産社会：

商品の販売によって私的労働が _____ 労働の一環であったことが証明される社会

労働者は _____ を得るためだけに労働

*1～3は資本主義システムだからこそ必要になる機能にすぎない

(c) 労働の精神的側面と肉体的側面の分離・対立

資本主義において指揮・監督の機能は

協業における本来の機能と資本主義的協業から生じる機能とが _____

⇒指揮・監督の階層構造が当然必要なものとして現われる

人間の労働に本来含まれている

- 精神的側面：構想・計画・判断・統御
- 肉体的側面：労働対象への直接的働きかけ

前者の多くは経営・管理者層が行ない、後者は直接的生産労働者が行なう

両者が分離・対立し労働者の _____ ・階層化が進む

(2) 分業(分業によって特徴づけられた協業)

- 分業 {
- 社会的分業：社会的総労働の諸部門への _____
 - 工場内分業：1つの工場内での作業の _____

ここでの問題は後者の工場内分業(ただし生産現場だけでなく企業内の分業全般に妥当する)

定義：複数の生産者が異なる作業を分担しあう形で行なう共同労働

イギリスの16世紀半ばから18世紀半ば過ぎまでに見られる本来のマニファクチュア時代の手工業制工場に典型的に現われる。マニファクチュア的分業とも呼ばれる

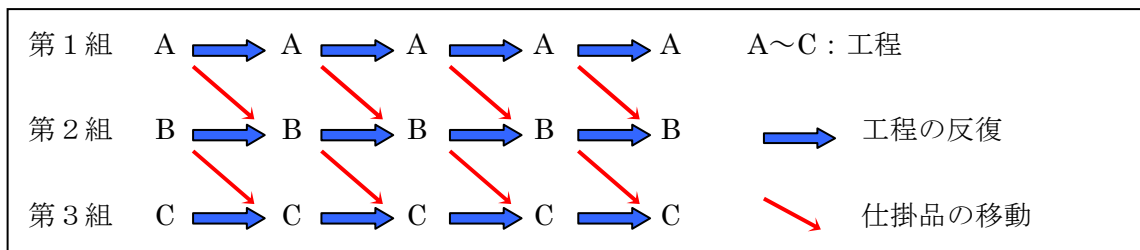
分業の仕組み

単純協業：

作業者は完成品までの _____ を担当し各工程終了後に道具を次の作業者に移動

分業：

作業者は完成までの _____ 工程のみを担当、工程終了後に仕掛品を次の作業者に移動



*労働者は、1つの生産機構の単なる1器官として _____ 労働者となる

① 分業による生産力の発展

協業一般において創造される生産力発展に加えて

(a) 熟練度の上昇

個々の労働者の作業が単一化⇒作業の _____

同じ作業の繰り返し⇒その作業の _____ が上昇

(b) 作業方法の改良

単一作業の反復と集中

⇒最小の_____で最大の効果を上げる作業方法の発見・工夫と確立

(c) 工程転換の効率化

各工程の転換時間の節約⇒作業の_____

材料運搬だけの_____労働の発生

(d) 道具の分化・専門化

作業の_____⇒道具の分化・専門化

*人間も道具も部分労働専用となる

②「資本の生産力」としての発現(分業に固有な事情)

(a) 独立可能性の喪失

i) 生産力格差

資本：協業や分業によって生産力が_____

小生産者：独立分散的な生産＝生産力が_____

⇒小生産者の資本の生産力への対抗が_____

ii) 部分労働者化

一部の工程のみの担当・専門化

⇒完成品を生産する技術・能力の_____

資本に労働力を販売し従属することによってのみ社会的生産力を発揮できるという事情が強化

*資本に従属せず独立する可能性を_____

(b) 相対的剰余価値の増大

i) 生産力の上昇

分業による生産力の上昇

→労働力の必要生活手段の価値_____

→労働力商品の価値_____→相対的剰余価値の増大

ii) 部分労働者化

一部の工程のみの担当→作業の_____

→労働力の_____・_____費の低下

→労働力商品の価値低下→相対的剰余価値の増大

③ 資本による労働支配(分業に固有な事情)

(a) 一定の労働強度の強制

分業における各工程の成果⇒_____の円滑な実行のために必要不可欠な条件

部分労働者に対して、全体の計画の下で作業の連続性・規則性を要求

⇒一定の高められた労働強度を強制

(b) 精神的労働と肉体的労働の分離

労働に必要な労働過程全体に関する知識・洞察力、計画・統御の能力、生産的創意や技術的思考

⇒_____へ移転

労働者と対立し労働者を_____する能力として集積

(c) 賃金格差・労働力の等級制

各工程・作業の重要度や必要な熟練度の差⇒労賃の_____・労働力の_____の形成

⇒労働者の間に_____意識を植えつける

資本による労働者の_____・支配の手段として利用

(d) 資本による労働支配の限界

マニファクチュア的分業の生産力の基礎

=労働者の_____熟練

⇒生産力発展の_____

*小生産者との生産力格差は_____

*資本と労働者との間の力関係____資本家の圧倒的優位

II 機械制大工業

産業革命以降の生産の技術的基礎：機械を主要な労働手段とする「大工業」が支配的

⇒資本への労働者の_____・資本による労働の包摂が決定的なものとなる

(1) 機械の3つの要素

- 原動機 : _____
- 伝力(伝導)機構：運動の調節・形態変化→_____を作業機に分配・伝達
- 作業機(道具機)：労働者に代わって労働_____に直接働きかける1つの機構

機械のもっとも本質的な部分=_____

(2) 機械の大規模化

① 作業機による人間の能力の限界の打破

作業時の道具の数・大きさ・重さ・運動速度

手工業：人間の能力の限界によって制限

作業機：制限なし⇒_____化・高速化

＝労働生産力の飛躍的発展の技術的基礎

② 伝力機構の大規模化

作業機の規模・道具の数の_____と高速化

⇒対応する伝力機構の大規模化を要求

③ 強力な動力の必要性

作業機と伝力機構の大規模化・高速化

⇒機械的抵抗の_____⇒より強力な動力を生み出す_____の必要性

④ 作業機・原動機の相互促進的発達

1712年 ニューコメンの蒸気ポンプ

1764年ごろ ハーグリーブスの多軸紡績機(ジェニー)

1769年 アークライトの水力紡績機、ワットの蒸気機関

1779年 クロンプトンのミュール紡績機

綿糸の大量生産が織機の改良を促進⇒1785年 カートライトの力織機

産業革命の進展＝機械制大工業の発達

動力の発達：人力・畜力⇒水力⇒_____機関⇒電動機・内燃機関

より強力・安定的な動力の現実化 ⇔ 機械の複雑化・大規模化・高速化

大量生産の実現⇔_____手段の発達

⇒経済だけでなく社会や生活にも大きな変革

(3) 機械制大工業による生産力の発展

巨大な生産力とその発展＝自然に対する_____の顕著な増大

① 自然科学の意識的応用

機械への自然科学の意識的な応用⇒人間の力や経験的_____への依存の制約の打破

⇒労働の_____

⇒作業の精度・速度・連続性・規模などにおいて 飛躍的な進歩

② 自然科学の発展との相互促進的進展

機械による生産の進展

⇒自然科学の_____とその_____を促進⇔機械の新たな発明・改良

(4) 資本の生産力としての生産力の発展

機械制大工業の本来的性格

機械制大工業による生産力の急速な発展

⇒ { 労働の _____ ・ 労働時間の _____
人間生活の豊かさ・多様化

をもたらす可能性をもつ

機械制大工業の資本主義的利用形態

⇒ 資本による剰余価値の増大と労働者 _____ の有力な手段となる

① 相対的剰余価値の生産

(a) 生産力の上昇

機械制大工業における生産力の急速な発展

→ 労働者の必要生活手段の価値 _____

* 手工業の場合より急速に進展

(b) 労働の単純化・熟練の解体

労働の単純化・熟練の解体を著しく促進

⇒ { _____ の労働力化
成年男子・熟練労働力を不要化

→ 労働力の _____ 費の低下

(c) 女性や子供の労働力化

世帯内の女性や子供・不熟練者の労働力化

→ 労働力の _____ 費の低下

② 労働時間の延長と労働の強化

生産力上昇 ⇒ 労働時間 _____ の可能性

= 労働時間 _____ でも特別剰余価値・相対的剰余価値の増大が可能

現実には機械の導入 ⇒ 労働時間の _____

これはなぜか？

(a) 投下固定資本価値の早期回収

i) 固定資本の流通の特殊性

工場や機械設備などに投下される固定資本

購入時の固定資本価値の一括 _____ と生産・販売による長期間の漸次的 _____

ii) 労働手段の「物理的損耗」

「物理的損耗」期間が1日の使用時間に無関係な場合

⇒生産物の販売が順調なかぎり投下固定資本価値の_____回収が有利

iii) 労働手段の「無形の損耗」

技術革新や特別剰余価値をめぐる競争

投下資本未回収の労働手段(物理的には使用可能)

⇒剰余価値獲得の目的のためには使用が_____

⇒無形の損耗を回避するための投下固定資本価値の_____回収の必要性

(b) 絶対的剰余価値の増大

資本による労働_____の強化・機械への労働の_____

⇒労働の強化による絶対的剰余価値の追求

(5) 資本による労働支配の完成

① 労働者の全面的可動性の実現

機械制大工業の発展

⇒手工業的_____の破壊

⇒労働の単純化・_____化(機械の操作・監視等)

⇒作業の重要度や必要な熟練度の差にもとづくマニファクチュア的分業体系の破壊

⇒労働者の全面的_____性*の実現

*さまざまな労働分野に移動し労働する可能性

② 資本による労働者支配体制の組織的再編・強化

技術的必然性を_____したマニファクチュア的分業体系を労働者支配体制として再編・強化

(a) 部分労働の固定化

機械制大工業による労働の全面的可動性の実現

⇔労働者は特定の部分機械・作業に_____＝全生産過程のごく一部の機械・工程に_____

⇒_____可能性の喪失

⇒資本(家)への絶望的な従属の完成

*絶望的従属：独立可能性の喪失によって、資本(家)の支配下に入って労働し賃金を得ること以外に生活手段を得る方法がないこと。個々人が「絶望」しているという意味ではない。

(b) 機械の運動への人間の従属

手工業段階：道具が人間に従属⇒労働_____をある程度までコントロール可能

機械制大工業段階：機械の運動に人間が従属⇒人間が機械によって使用される

＝資本主義社会固有の_____した形態の実現化

(c) 労働の精神的側面の分離・対立の強化

手工業的生産過程の機械化・機械の自動化過程

熟練労働者の知識・経験・勘・コツなどの技能⇒_____の技術への置き換え

科学や技術が巨大な機械体系のなかに体化

⇒機械とともに_____の権力を形成・強化＝_____

(d) 指揮・監督機能の資本主義的性格

労働の単純化・平準化の進展 ⇒労働の等級性・性別・年令等の差別の無意味化

⇒指揮・監督機能の資本主義的性格の_____

＝労働者の_____・資本による労働支配の手段

(e) 新たな機械の採用・改良と失業

新たな機械の採用・改良

⇒熟練労働者や旧機械の労働者の不要化＝_____

⇒就業労働者への_____圧力

*賃金・労働条件の低下、資本への労働者の_____の強化作用

(6) 機械制大工業による資本主義の本格的確立

① 小生産者や農村家内工業者の賃労働者化

ある産業部門内で機械制生産が成立＝圧倒的な_____

⇒_____格差による部門内の小生産者や農村家内工業者の駆逐

⇒小生産者や農村家内工業者の_____化

⇒部門全体の資本主義的商品生産化

② 関連生産部門の機械制大工業化

ある産業部門の機械制大工業化＝大量生産化

⇒生産手段需要と生産物供給の_____

⇒周辺の関連生産部門の大量生産・機械制大工業化の促進

⇒種々の機械に対する大量の需要

⇒「機械による機械の生産」

＝機械を作る機械：_____ (machine tool)の発明と産業化の促進

③ 資本主義の本格的確立

繊維産業で始まった産業革命・機械制大工業

⇒関連産業部門への波及

⇒工作機械産業の発生・発展＝機械制大工業の技術的_____

工作機械産業の発展・機械制大工業化

繊維機械産業の機械制大工業化

紡績機械・織機の需要増大

繊維産業における産業革命・機械制大工業化

綿糸の供給増大・価格低下

綿織物産業の機械制大工業化

機械制大工業の確立

⇒ { 直接的生産過程における労働支配の _____
資本主義的生産様式の社会全体の _____

⇒ _____ 追求原理の全社会への貫徹

⇒資本主義の本格的確立

マニュファクチュア段階では社会の一部を占めるにとどまっていた資本主義的商品生産は、機械制大工業への移行によってまさに確立する